

知られざる 京都旅。

水運の父、
角倉了以の
功績を巡る。

#001 Trip in Kyoto *incoming of spring*

今回の旅は、了以の生まれ育った京都・嵐山を起点に、保津川に沿って京都府中北部の丹波エリアに向かおうと思う。平成27年夏には、京都縦貫自動車道が全線開通し、京都府北部へのアクセスがぐんと便利になったばかり。思い切って日本海を目指し、日本三景として有名な天橋立まで足を延ばしてみよう。郊外の自然豊かなエリアに行き、今まで知らなかった京都の魅力を探したい。

京都に都ができて1200余年。その間、日本の歴史を変えようとした出来事が起こり、それに携わった偉人たちが数多く存在する。しかし、日本史の教科書に載っている人物はほんの一握りだ。知名度は低い、忘れてはいけない人物がいる。そのひとり、水運の父として江戸時代から明治時代に活躍した角倉了以(すみのくらりょうい)だ。私財を投じて、嵐山の渡月橋が架かる保津川、京都の街中を流れる高瀬川の開削を行い、丹後から京都、大阪を結ぶ水運を完成させ、地域の経済発展に大きく貢献した。

私財を投じて 河川を開削し、 京都の発展に 貢献した 角倉了以。



：保津橋

保津橋は全長368メートルの6径間連続PCエクストラードスト橋。100メートルの支間長にも関わらず、2.8メートルの等桁高が実現され、景観と施工性が高められている。田中賞受賞。

最

初に訪れたのは京都・嵐山。渡月橋の左岸を上流に向かうと見えてくる小高い丘が亀山公園だ。そこには青空を背景に、角倉了以像が堂々とそびえていた。

角倉家は古くからの医家で、足利将軍家に代々仕えて医学の発展に尽くしてきた。その後、朱印船貿易で財を成し、「京の三長者」の一つに挙げられるほどの豪商となった。多くの富を得た了以は、私財を投じて保津川工事という公共工事に投資した。

保津川は、京都府西部を南東に流れる川。上流部は大堰（おおい）川と呼ばれ、亀岡盆地の出口付近から保津川となって保津峡を流れ、嵐山の渡月橋で京都盆地に出てからは桂川となる。この水流は、京都・大阪への物資の輸送路としての役割を担い、長岡京・平安京の造営時には丹波の良質な天然木材を筏で運び、都の造営や寺の建立、城の造営・修築に利用された。しかし、江戸時代までの間、材木の運搬に限られていたのは、その深い渓谷に原因があったから。そこで了以は慶長11（1606）年3月、51歳のときに開削に取り組んだ。大岩を爆破したり、叩き砕くなど多数の死者が出る難工事だったが、5カ月間という短期間で完成させた。



亀

山公園から嵐山を散策して嵯峨野トロッコ列車のトロッコ嵯峨駅へと向かった。

この列車は、JR山陰線の複線化によって使われなくなった線路の観光利用を目的に平成3年に開業された。駅のホームはカメラを掲げた観光客で賑わい、列車が到着すると歓声が沸き上がった。カタコトとした揺れを感じながら保津川の渓谷美を眺めると、あつという間にトロッコ亀岡駅に到着。送迎バスで保津川下りの乗船場に足を運んでみると、近くには保津橋が存在感を放っていた。景観に配慮した美しいフォルムの橋は、地域のランドマーク的役割を果たしている。

保津川の役割は、道路や鉄道が発達した明治以降は物資輸送から観光へと本格的に変わっていった。今では山間の渓谷を16キロメートル流れて嵐山までの約2時間、自然と触れ合いながらスリルある急流の船旅を楽しむことができる。年間約30万人の観光客が乗船し、紅葉シーズンは25人乗りの船が、1日100回以上も川を下る。船はトラックが3隻ずつ積んで運搬しているそうだ。

現在、亀岡市とその周辺エリアで暮らす約120人の船頭が活躍している。ベテランが中心だが、最近では20代のイケメン男子が増え、保津川下りを盛り上げているそうだ。

イケメン船頭さんと出会える？
急流のスリル満点の保津川下り。

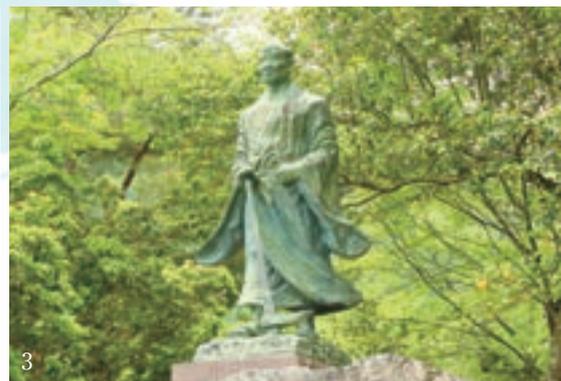


2

1. 渡月橋: 京都らしい風光明媚な景色が広がる渡月橋エリア。嵐山といえば最初に思い出すシンボリック的存在だ 2. 保津川下り: 春は桜、夏は深緑、秋は紅葉、冬は雪景色…四季の風景やサルや鹿といった動物との出会いを楽しめる 3. 角倉了以像: 嵐山・亀山公園にある。碑文には大石を大勢の人で引き動かしたなど難工事の様子が書かれている 4. 嵯峨野トロッコ列車: 嵯峨野から亀岡までの片道7.3キロメートルを25分かけて運行する



4



3

日吉ダムに隣接した道の駅。 大自然の中で 爽やかな風と食を満喫。

：日吉ダムとスプリングスひよし

平成5年に「地域に開かれたダム」の第1号に指定された日吉ダム。土木と建築の分野が協力して一つの景観づくりを行った例は全国的にも少なく、業界からも注目されている

写真提供:近畿地方整備局



ここからは京都縦貫自動車道を利用し、了以が開削を行った保津川の上流、世木地区（京都府南丹市日吉町）へと向かった。現在は、日吉ダムと道の駅が造られ、週末には地元や近隣からの観光客が訪れる人気スポットだ。

日吉ダムは、淀川・桂川流域の治水と京阪神への利水を兼ね備えた多目的ダムとして平成10年3月に完成した。ダム湖（天若湖）の貯水容量は6600万立方メートルと、その広さは甲子園球場70倍、水量は東京ドーム53杯分の水を貯える巨大な人造湖だ。この日吉ダムの直下には道の駅『スプリングスひよし』があり、自然豊かな広大な敷地には、BBQガーデンやひよし温泉、温水プール、レストラン、特産品販売所などの施設が充実している。

：夢のかけ橋

日吉ダムのダム湖に架かる橋梁。湖面が鏡のようになり、ずっと伸びる橋梁と山々を写した景色が印象的だ

：日吉ダムカレー

日吉ダム全体を表現したカレー。ちなみに全国には60以上のダムカレーがあるそうだ



そろそろお腹が空いてきたので『スプリングスひよし』でランチタイム。名産品の黒豆乳を使った菜膳ラーメン、ぼたん鍋、伝統料理の納豆もちなどの多彩なメニューが揃うなか、「日吉ダムカレー」を注文した。カレールの貯水池と古代米の芝生公園の間を地元産のお米でつくった日吉ダムが堰き止め、放水を福神漬けで表現している点がユニーク。窓越しに日吉ダムを望み、味わったピリ辛のカレーは格別だった。

昼食後にダムの周辺を散策すると野鳥の声と爽やかな風が心地よかった。そして「夢のかけ橋」という名の湖面橋を発見した。

：京丹波由良川橋

8径間連続ラーメン箱桁橋。カンチレバー工法(やじるべえ工法)による上部工の張り出しを行い、左右のバランスを取りながら2週間で3メートルずつ伸長。最大支間は136メートルあり、同じ工程を20回繰り返した



：縦貫道の橋たち

京都縦貫自動車道の新たに開通した区間には、8カ所のトンネル、17カ所の橋梁が存在。前谷川橋、瀧谷高架橋と大きな橋梁が続く

京都縦貫自動車道で京都北部へ 宮津で新鮮な魚介を堪能。

江

戸時代は京から亀岡、福知山から但馬へとつながる山陰街道が主要街道だったが、現在では国道9号線がほぼそのルートを継承する。さらに平成27年7月には京都府を南北に縦貫する京都縦貫自動車道が約35年の歳月をかけて全線開通した。

京都縦貫自動車道は、日本海に面する宮津市の宮津天橋立ICを起点に京都府久世郡久御山町の久御山ICにいたる延長約100キロメートルの高規格幹線道路。京丹波わちICから丹波ICまでの18.9キロメートルの区間が新たに開通した。この京丹波わちIC付近に架かる京丹波由良川橋の橋脚の高さは最大50メートル。自然豊かな山間部の上空を貫くスケールは圧巻で、下から見上げると迫力はさらに増す。

国土交通省が発表した全線開通後の夏期利用状況によると、開通した区間の休日の交通量は前年比2倍になり、京都北部の観光地の来場

者も3割近く増加。物流の効率化や生活環境の向上といった「ストック効果」、さらに観光客増加や民間需要の拡大、雇用創出等による「フロー効果」による地域活性化が進んだ。了以は、その先駆者として同様の実績を上げたといえる。

日が暮れる前に宮津天橋立ICに到着。宮津駅前の居酒屋「富田屋(とんだや)」で夕食を取ったが、平日にも関わらず満席状態だった。お腹が空いた勢いに乗って刺身や煮付け、あさり焼き、カニなど魚介を中心に注文したが、どれもボリュームたっぷりで美味しい。もう何も入らないくらいに満腹になった。



：富田屋の料理

あさり焼きは、ちりとりのような形をした鉄板に山盛りのあさりが。一つひとつの身が大きく、ふっくらプリプリとしていた



：天橋立

ケーブルカーやリフトで傘松公園の展望台に行くと天橋立の全景を望むことができる

京都宇治で 優雅で華やかな 「源氏物語」の世界を 愉しむ。



：宇治橋

大化2(646)年に奈良元興寺の僧・道登(どうと)によって架けられた日本三古橋の一つに数えられる。いにしえの時代から現在まで、宇治の象徴として親しまれている。現在の橋は平成18年に架け替えられたもの



：高瀬川

浅瀬でゆったりと流れる高瀬川は、京都木屋町に趣ある風景をつくりだす。京都の桜の名所としても人気のスポット

翌

朝に立ち寄ったのは日本三景のひとつ天橋立。宮津湾と内海の阿蘇海を南北に隔てる3.6キロメートルの砂州の帯には約8千本の松林が続く。東側の砂浜から聞こえてくる波の音が心地いい。澄んだ空と青い海、爽やかな風を浴び、気分転換ができた。

了以は京都市の中心地から伏見へと流れる高瀬川の開削も行い、宇治や大阪への物流インフラ構築にも貢献した。そこで今日は京都縦貫自動車道を二気に南下して、宇治市まで足を延ばしてみようと思った。ちなみに高瀬川は、了以と息子の素庵(そあん)によって慶長19(1614)年に開かれた運河で、角倉川ともいわれている。この流れで高瀬舟が物資を運び、京の町は大きく発展したが、同年7月、了以は高瀬川の完成を見ることなく亡くなった。

まずは宇治市の源氏物語ミュージアムを訪れた。『源氏物語』は平安時代半ばに紫式部が書いた長篇小説。五十四帖の中の最後の十帖は、宇治が主な舞台になっている。

寝殿造りをイメージさせる柔らかなウエーブを描くPC構造の屋根をくぐると、王朝絵巻の華やかな世界が広がる。館内では源氏物語やその背景にある平安文化が再現され、タイムスリップをしたような気分になった。



：源氏物語ミュージアム 平安時代の寝殿造りのような優雅でやわらかな空間を創出するために、源氏物語ミュージアムの屋根はPC構造でつくられた

：白虹橋

天ヶ瀬ダムの際に架かる国内で5橋目の自碇式PC吊床版橋。放水トンネルの坑口が白虹橋の位置と重なるため、架け替えが必要となった。



源氏物語ミュージアムから宇治橋を渡り、宇治川の上流に向かうと世界文化遺産の平等院、その先には天ヶ瀬ダムと工事中の橋が見えてきた。現場にいた職員さんに聞いたところ、白虹橋（はっこうばし）というPC橋で、周辺の自然と調和するように設計されたそうだ。来春には、美しい桜の風景と一体となったスレンダーな姿を楽しませてくれるだろう。

創業約300年の京都の老舗で お茶の知識や、淹れ方を学ぶ。



宇

治といえは有名なのは宇治茶。もうすぐ新茶のシーズンを迎える時期。せっかくなので了以が開削した高瀬川を經由して、友人に紹介された一保堂茶舗でお茶について教わってきた。

一保堂茶舗は、約300年以上の歴史を誇る日本茶専門店だ。弘化3(1846)年に山階宮(やましなのみや)から「茶つを保つ」ようにと屋号を賜り、茶葉の魅力を伝え続けている。早速、店主が淹れてくれたお茶をいただく、まろやかな熟成された味わいと香り口の中に広がった茶摘みは立春から八十八夜を過ぎたころに始まり、10日前後で商品が店頭に並ぶ。「新茶ならではの若い香りは、ほんのひと月だけ味わうことができる旬のもの。愉しんでみてくださ」と笑顔で語ってくれた。

心地よいもてなしでエピローグを迎えた京都の旅では、*PFIの先駆けとなる保津川と高瀬川の開削に取り組んだ了以の功績を巡ることが

できた。交通インフラは時代とともに水運だけでなく鉄道や道路と多様化し、新しい構造や施工技術が次々と生み出されてきた。その一つであるPC(プレストレストコンクリート)は耐久性や安全性、経済性などに優れた高速道路などの大規模橋梁や特殊構造物に多く採用されている。PCの技術は、日本ではまだ65年の歴史だが、一保堂茶舗の「茶つを保つ」の精神で技術を研鑽し、了以のような効率かつ効果的な公共サービスが提供できれば、まだまだ成長する分野だと改めて感じた。了以を通じて新しい京都の魅力を知り、旅を十分に堪能できたことに感謝したい。



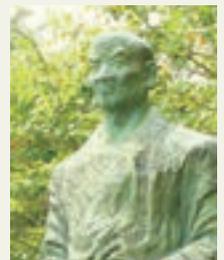
一保堂茶舗

京都御所の南北に走る寺町通りに面する一保堂茶舗本店。あたりには骨董屋や画廊が建ち並ぶ。

*PFI(Private Finance Initiative: プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)とは公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法のこと

角倉 了以 すみのくら りょうい (1554~1614年)

安土桃山・江戸初期の豪商。京都嵯峨の出身。土倉経営を中心に家業を發展させ、海外貿易でも文禄元年(1592)豊臣秀吉の朱印船に加わり、安南国(今のベトナム)と貿易して莫大な富を得たようだ。1606年に、保津川(大堰川)開掘の願書を出し、開削を始めて6ヵ月後には竣工させている。他にも了以が行った河川疎通事業としては、富士川・天龍川・高瀬川等の開削がある。京都の高瀬の開削では、水がいつも濁らぬよう、樋門や汚水抜き溝なども配置しており、この計画が非常に優秀なものであった事がわかる。



知られざる
京都旅。
PC橋梁
MAP

